

めざす学校像・子ども像・教員像		課 題	今後の改善方針
【めざす学校像】 <input type="radio"/> 自分の居場所があり、子どもが満足する学校 <input type="radio"/> 保護者・地域から信頼される学校 <input type="radio"/> 教職員がやりがいを感じる学校 【めざす児童像】 <input type="radio"/> 自分と友だちを大切に子ども <input type="radio"/> 本気で学習する子ども <input type="radio"/> 生活のきまりを守る子ども 【めざす教師像】 <input type="radio"/> 教育愛と情熱をもって子どもに接していく教師 <input type="radio"/> 授業力（学習指導要領の具現化から）を高める教師 <input type="radio"/> 協働力（学年・保護者・地域・関係機関等）を高める教師		主体的、対話的な深い学び	・自ら進んで学習に参加し、考えをもったり、交流したりして深めていくために、考えを醸成する時間や場を授業に位置づける。
		相手を意識した行動	・自己中心的な考えから相手の存在を意識し、共に高まっていくこととする考え方に変容するように学級会やグループ活動、係活動等学校生活に位置づけ、継続して取り組んでいく。
		規範意識の向上	・約束やきまりを守ることの大切さを意識するために学校全体の指導の方向性を同一にすると共に、継続した取組を行う。
達成状況についての説明			
確かな学力の育成と向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のポイントを生かした授業実践を通して授業力向上に努め、学校評価で肯定的評価を90%以上にする。 ・テーマ研究を通して学び合い考えを高め合う学習指導の授業公開を全38学級で行い、授業力向上に努める。 ・全教科の授業において「話すこと・書くこと」の充実を図り、学校評価で肯定的評価を90%以上にする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・めあてとまとめを明確に授業の中に位置づけ、学習を進めていくことが概ね日常的にできている。 ・学校教育アンケートにおいて学力向上の取組に対して90%の保護者が肯定的な評価をしている。 ・コロナ禍のもと授業公開を実施することはできなかったが、各学級担任がテーマをもって授業を行い、紙面を通して協議会を実施した。 ・コロナ禍のもと授業において「話すこと」について制約が大きかったが、可能な範囲で、相手に考えを伝えるために学年の発達段階において工夫を行っていた。
自他を大切に思いやりのある子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や地域人材の活用など教育の充実を図り、学校評価で肯定的評価を90%以上にする。 ・QUアンケート等に基づいた指導や対応を行い、いじめの発生をゼロにする。 ・支持的風土のある学級集団や児童への賞賛・励まし等を通して、自己肯定感・自尊感情の肯定的評価を90%以上にする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や地域人材の活用においては、可能な範囲で屋外や通信機器を活用して行った。 ・QUアンケートやなかよしアンケートを通して児童の人間関係に関する実態把握を行っている。課題が見られる状況については、適宜、面談を通して状況を聴き解決に向けた手立てをとっており、長期化せず短期での解決につながっている。 ・児童及び教職員に新型コロナウイルス陽性者が出たことによって、誹謗中傷や偏見など差別につながるものが似よう、各学級において指導を行った。 ・学校教育アンケートによる保護者の「児童の思いやり」に関する評価では、肯定的な考えをもっている割合が95%である。
規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や特別活動の充実を図り、学校評価において約束やきまりを守っているという肯定的評価を90%以上にする。 ・危機意識を持った日常的な安全点検や廊下歩行の徹底等を行い、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。 ・気持ちのいい挨拶や「黙々掃除」「立腰タイム」の日常化を図り、学校評価で肯定的評価を80%以上にする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートにおいて約束やきまりを守っていると、肯定的な評価をしている保護者は95%いる。 ・授業だけではなく、あらゆる生活場面を通して「生活のきまりを守る」ということについて常に意識するよう働きかけていった。」 ・廊下歩行では、ボトムアップの考えから児童自ら声を掛け合い、改善していくことができるよう取り組みを進めていったが、コロナ禍により、十分に児童会を活用していくことができなかった。 ・学校教育アンケートにおいて望ましい生活習慣が身に付いていると肯定的な評価をしている保護者は85%であった。
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			

○コロナ禍のもと学校運営は、大変であると思います。特に、新型コロナウイルスの陽性者が判明し、休校になった際の対応については、私たちの想像を超える労力を使い、気を遣ったのではないのでしょうか。そのような中で、子どもたちのために取り組んでいる先生方には頭が下がる思いです。

○今回は、児童の様子を学校の外からしか見ることができませんでした。登下校の様子を見ると、普段と変わらないように思いますが、時折行き渋っている子どもの姿を見ることがありました。その子どもに対するケアを十分にさせていただきたいと思います。

○新型コロナウイルス感染による差別事象が多く起きている現状を踏まえたときに、高取小学校でもそのようなことが起きないように十分に配慮してほしいと思います。